

離島のエネ対策つぶさに 西ノ島町で国内外の大学院生 新蓄電池施設を見学

広島大(東広島市)やテ
キサス大(米国)など国内
外4大学で経済などを学ぶ
11万国の大学院生ら33人が
19日、島根県西ノ島町で、
中国電力(広島市)が9月
末から国内初の実証事業に
取り組む「ハイブリッド蓄



中国電力の担当者(手前左)からハイブリッド蓄電池システム実証事業について説明を受ける学生ら。島根県西ノ島町美田、西ノ島変電所

電池システム」の拠点施設を見学し、再生可能エネルギーの安定供給への理解を深めた。
一行は、17日から5日間の日程で、同県隠岐の島町を拠点に研修。本土からの送電ができない離島など

で、再生可能エネルギーを開発、供給する方策を学んでいる。
「ハイブリッド蓄電池システム」は、気象条件による小さな出力変動に適するリチウムイオン電池と、昼間から夜間などの大きな出力変動に適したナトリウム・硫黄電池の組み合わせで、電力の安定供給を図る仕組み。

西ノ島町美田の西ノ島変電所で、中電の担当者から説明を受けた大学院生ら

は、火災が発生した際の防災対策などについて質問していた。広島大大学院先端物質科学研究科2年の銭谷由さん(24)は「実証事業がうまくいけば画期的だ」と話した。

(松本稔史)